

## 歴史・文明分野（人文・社会科学科目群）

### ① 日本史関係科目の分類

日本史関係科目は、基礎的な内容を中心とし、幅広い時代を取り上げる日本史（各々Ⅰ・Ⅱ）と、より限定されたテーマを取り上げる各論、および少人数で講読・研究発表などを行う基礎ゼミナール（前期は ILAS セミナー）で構成されている。

「日本史」は、担当者の専門によって、取り上げる時代・テーマが異なっており、それぞれ古代・中世・近世・近代に重点を置く内容となっている。しかし、幅広い時代に言及しているので、その内容はシラバスで十分確認してもらいたい。また同一担当者の授業のⅠ・Ⅱは関連した内容なので、連続して受講することが望ましいが、もちろん単独でも完結した内容である。これらの科目は、理系や、高校段階で日本史を履修していない受講者にも配慮する内容となっている。また前期開講の ILAS セミナーも、研究入門的な性格をもつ。

これに対し、各論、後期開講の基礎ゼミナールは、テーマがやや絞られており、専門性の高い授業もあるので、その内容についてはシラバスで確認してもらいたい。

### ② 東洋史関係科目の分類

東洋史関係科目は、「基礎」科目の「東洋史Ⅰ・Ⅱ」（それぞれ前・後期開講）と「各論」科目の「東洋史基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ」に分かれる。基礎科目の「東洋史」は、おおむね「古代～中世史」、「近世史」「近代～現代史」に分けて開講される。詳細については、シラバスを参照してほしいが、高校段階で世界史を履修していない者にも配慮した内容となっているので、各人の興味と関心に応じて積極的に履修してもらいたい。

各論の「東洋史基礎ゼミナール」（後期開講）は、少人数授業の形式を取る。テーマが多少絞られていたり、やや専門性が高いこともあるが、世界史の教科書とかけ離れた内容にはならないので、果敢に挑戦してほしいと思う。少人数で行う文献講読やゼミ形式の授業では、受講者の主体的な授業参加が求められる。その分、厳しい要求をされることもあるが、それは必ずや成長の糧となるはずである。

なお、後期開講の「東洋史基礎ゼミナール」は、前期開講の ILAS セミナー「中国史の基礎資料」および「東洋史入門」で学んだことを基礎とし、それを発展させた内容を含んでいる。両者を連続して受講することで、より充実した学習を期待することができるであろう。

### ③ 西洋史関係科目の分類

西洋史関係科目は、ヨーロッパ社会の継時的な発展をとりあげる基礎的な西洋史Ⅰ・Ⅱと、比較的時代や、地域・国家を限定した各論、および少人数で講読・プレゼンテーションを行う基礎ゼミナールで構成されている。

西洋史Ⅰは、原則として、ヨーロッパの固有の文明の起源や成立にかかわり、西洋史Ⅱは、ヨーロッパの成立・発展にかかわるものであるが、ヨーロッパのすべての地域や国家を扱うものではないので、内容についてはシラバスで確認してほしい。また、これらの科目は、理系学生や、高校段階で世界史を履修していない人にも理解してもらえるように配慮する。

各論は、時代や地域・国家を特定しているが、内容は基礎的であり、西洋史Ⅰ・Ⅱと同様に、初学者にも十分に配慮している。その内容についてはシラバスで確認してほしい。

### ④ 現代文明論科目の分類

現代文明論科目は、現代文明の思想的背景を扱う現代文明Ⅰと現代社会に特有の構造・現象をとりあげる現代文明Ⅱ、および少人数で講読やプレゼンテーションを行う基礎ゼミナールで構成されている。狭義の歴史学に収まらない分野横断的な視点から近代資本主義社会を含む経済文明の原理を探るという点で、最も「一般教養」科目に相応しい科目の一つであり、経済学系の教員が担当する。